

# 「ようだ」「것 같다」「듯하다」<sup>1</sup>の日韓対照研究

金 惠娟

キーワード：比較、類似（性）、関連づけ、関連（性）、判断根拠の種類

## 1. はじめに

geosgatda deushada

「ようだ」「것 같다」「듯하다」は<比況>と<推量>の意味を表すことができる。(1)

geosgatda deushada

は「ようだ」「것 같다」「듯하다」が<比況>を表す例であり、(2)は<推量>を表す例である。

(1) a 彼の服装はまるで女の人のようだ。

b 그의 옷차림은 마치 여자인 것 같다.

c 그의 옷차림은 마치 여자인 듯하다.

(2) a 雨が降っているようだ。

b 비가 오고 있는 것 같다.

c 비가 오고 있는 듯하다.

geosgatda deushada

本稿では、(1) (2) のように「ようだ」「것 같다」「듯하다」が<比況>の意味を表す場合と<推量>の意味を表す場合にそれぞれどのような原理が働くのかについて考察することを目的とする。また、それぞれ表現形式の共通・個別の意味機能を探り、日韓対照を行う。

## 2. 先行研究及び本稿の立場

「ようだ」は主に「らしい」と比較されながら研究がなされてきた。「ようだ」の研究は

---

<sup>1</sup> ローマ字は文化観光部（2000）に従う。

大きく三つの観点から論じられてきた。それは寺村（1984）などの「判断根拠の種類」と早津（1988）などの「命題と話者の心理的距離」、最後に大場（2002）・中村（2000）などの「基本意味」による分析であるが、本稿では中村（2000）などの「基本意味」による分析の立場をとる。

(3) (ぬれた傘を持って地下街を歩いている人を見て)「なんか、雨が降っているようだね」

中村（2000）は「ようだ」が<推量>を表す例で（3）を挙げている。「ぬれた傘を持って地下街を歩いている人がある」という事態は、常識的には雨が降っていなければ生じない事態であるから、知覚した事態から考えると判断して事態が事実であると考えられる。知覚した事態と判断した事態は、前者から後者が事実であると考えられるという意味において、近接した関係にあると言える。ぬれた傘を持って歩いている人があるという知覚した事態を、雨が降っていると判断できる事態ではないが、それに近いものであると捉え、このように捉えられた事態を対象として、「雨が降っているようだ」と述べている。また中村（2000）は（4）の例を挙げ、「ようだ」が<比況>の意味を表す場合は<知覚した物事を、それと類似の事物を意味として持つ言葉で述べている>と説明している。

(4) (猫に似ている犬を見て)「この犬、猫のようだね」

中村（2000）は、「ようだ」が<比況>と<推量>を表す場合、「ようだ」は<直接知覚した事態をそれと近い関係を持った事態で述べる語である>と考えられると述べている。しかし、中村（2000）は知覚した事態と判断した事態が「近い関係」と述べているが、「近い関係」とはどういうことであるのかについてはあまり言及していない。そこで本稿では「近い関係」とはどういうことなのかについて説明する。また中村（2000）は「ようだ」の<比況>と<推量>の共通意味に焦点を当てているが、本稿では2つの用法の違いについても考える。

大場（2002）は、「ようだ」は「現状が事態Xに見える」という意味である述べた。また大場（2002）は<比喩>を表す時の「ようだ」は<現状と事態Xとが似ている>と意味で「不確かな断定」を表す時の「ようだ」は<確信がないが現状はまさに事態Xである>と考えられる時に用いられると述べている。しかし、大場（2002）では「比喩」と「不確かな断定」が行われる場合の底にある原理の違いについては言及していない。そこで本稿で

geosgatda deushada

は日韓両言語で<比況>と<推量>の用法を持つ「ようだ」「것 같다」「듯하다」の基本意味を中村（2000）・大場（2002）の<現状は事態Xに似ている、近い>と考えた上で、この基本意味が<比況>と<推量>の意味にどのような影響を与えるのかについて述べ、2つの用法の違いを「類似性」「関連性」という観点から説明する。

### 3. <比況>と<推量>

geosgatda deushada

「ようだ」「것 같다」「듯하다」は<比況>と<推量>の意味を持つが、まず三つの表現形式が<比況>の意味を表す場合から見てみよう。

(5) a (歌手デビューができるなんて) まるで夢のようだ。

geosgatda deushada

b (가수데뷔를 할 수 있다니) 마치 꿈인 것 같다 / 듯하다。

(6) a (相手の顔をみて) まるで鏡をみているようだ。

geosgatda deushada

b (상대방의 얼굴을 보고) 마치 거울을 보고 있는 것 같다 / 듯하다。

geosgatda deushada

(5) と (6) の「ようだ」と「것 같다」「듯하다」は、ある現象や物事を直接説明せず他の似たような物事や現象に例えて現状を説明している。(5) は現状の<本当のことと思えない>という事態(気持ち)を「夢」に例えて説明しており、(6) は<自分と相手の顔がすごく似ている>という事態を「鏡」に例えている。即ち(5) は<歌手デビューが本当のことにように思えない(くらい嬉しい)>事態を「夢」が持つ<本当のことと思えない>という意味特徴で例えている。つまり、現状の<本当のことと思えない(くらい嬉しい)>事態と「夢」が持つ<本当のことと思えない>という意味特徴は共通している。また(6) は<相手の顔が自分の顔とすごく似ている>という事態を「鏡」が持つ<同じものを映す>という意味特徴で例えている。つまり、現状の<相手と自分の顔がすごく似ている>と「鏡」の<同じものを映す>は<同じくらい似ている>という共通の意味を持つ。本稿では、比較する事態と比較される事態がお互い似通っている場合、または2つの事態の間に共通点がある場合、二つの事態は類似していると考え。さらに本稿では、二つの事態の類似している性質に基づいて話者の判断が行われる場合、その判断は類似性に基づく判断であると考え。(5) の2つの事態は<本当のことと思えない>という意味特徴で類似しており、(6) の2つの事態は<同じだ(あるいは同じくらい似ている)>という意味特

geosgatda deushada

徴で類似している。(5) と (6) から分かるように、「ようだ」「것 같다」「듯하다」は2つの事態の類似性に基づいて<比況>を表している。<比況>とは、物事の説明にそれと類似したものを借りて表現することである。すなわち<比況>は二つの事態の類似している部分を結びつけて表現する、つまり「類似性」に基づく表現である。言い換えれば、「よ

geosgatda deushada

うだ」「것 같다」「듯하다」が<比況>を表す場合は「類似性」に基づいて表現される。(5)

geosgatda deushada

と(6)のように「ようだ」「짓 같다」「듯하다」が<比況>を表せる理由は、それぞれ形式の構成要素の影響である。「ようだ(様だ)」の「様」は「同じ様」「似た状態」という意味

を持っており、また韓国語の<sup>geosgatda</sup>「짓 같다」<sup>deushada</sup>「듯하다」もそれぞれ<sup>gatda</sup>「같다」<sup>deus</sup>「듯」が「同じ

geosgatda

である」「類似している」という意味を持っているからである。即ち、「ようだ」「짓 같다」  
deushada

「듯하다」が<比況>の意味を表せるのは、各表現形式の構成要素の「同じである」「類似している」という意味特徴と<比況>の持つ「類似している」という意味特徴が共通しているからである。つまり、各表現形式が持っている「類似している」という意味と<比況>の基にある「類似している」という思考過程が一致しているからである。

geosgatda deushada

(5)(6)では「ようだ」「짓 같다」「듯하다」が<比況>の意味を表す場合を見たが、次は<推量>の意味を表す場合を見てみよう。

geosgatda deushada

(7)～(9)の「ようだ」「짓 같다」「듯하다」は話し手の推量判断を表している。

(7) A (a-1) 地面が濡れている。 (a-2) 雨が降ったようだ。

geosgatda deushada

B (b-1) 지면이 젖어있다. (b-2) 비가 왔던 짓 같다/듯하다.

(8) A (a-1) 風呂場に電気がついている。(a-2) 京子はまだ洗っているようだ。

geosgatda deushada

B (b-1) 목욕탕에 불이 켜져 있다. (b-2) 료코는 아직 씻고 있는 짓 같다/듯하다.

(9) A (a-1) バラの香りがする。(a-2) 近くにバラを栽培しているところがあるよう  
だ。

geosgatda

B (b-1) 장미향기가 난다. (b-2) 근처에 장미를 재배하고 있는 곳이 있는 짓 같다

deushada

／듯하다.

(7)～(9)の(a-1)と(a-2)の文の関係を考えてみる。(7)の(a-2)の「雨が降った」という事態は(a-1)の「地面が濡れている」という事態を引き起こす可能性の中の一つの事態である。また(8)の(a-2)の「京子はまだ洗っている」という事態は(a-1)の「風呂場に電気がついている」という事態を引き起こす可能性の中の一つの事態である。(9)も(7)(8)と同様、「近くにバラを栽培しているところがある」という事態は

「バラの香りがする」という事態を引き起こす可能性の中の一つの事態である。つまり、(7)～(9)の(a-1)と(a-2)の事態は論理的な因果関係ではなく、話者は(a-1)を引き起こした原因を(a-2)の事態と捉えている。例えば(7)では(a-1)の「地面が濡れている」事態を引き起こした原因には「誰から水をこぼした、水が入っている水槽が割れた、雨が降った」などの事態が想定できる。また(8)では(a-1)の「風呂場に電気がついている」という事態を引き起こす事態としては、「風呂を掃除している、電気を消すのを忘れた、まだ洗っている」などの事態を想定することができるからである。(9)も(7)(8)と同様、(a-1)の「バラの匂いがする」という事態は「バラ園が近くにある、バラの香水をつけている人がいる」などの事態が想定できる。(a-1)を引き起こす様々な可能性の中で話者は、(7)では「雨が降った」、(8)では、「京子はまだ洗っている」、(9)では、「近くにバラを栽培しているところがある」と推量判断している。つまり(7)～(9)の(a-2)の事態は(a-1)の事態から想定できる事態の一つで、話者は自分の知識から一番成立しやすいと思う事態を合理的に解釈する。言い換えれば、(a-1)と(a-2)は論理的な因果関係で結ばれているのではなく、話者は話者の知識に基づいて(a-1)と(a-2)は何らかの関わりをもつと捉える。例えば(7)で、話し手は「地面が濡れる」という事態と「雨が降る」という事態は「雨が降ると地面が濡れる」という話し手の知識から、内容上2つの文はかかわりつながっていると考える。さらに(8)の「風呂場に電気がついている」という事態と「洗っている」という事態は「洗っている時には風呂場に電気をつける」という話者の経験などから、内容上(a-1)と(a-2)の文は関連していると考えられる。また(9)の「バラの香りがする」事態と「バラを栽培している」という事態は「バラを栽培している所ではバラの香りがする」という話者の経験または常識から、話者は内容上2つの文は

geosgatda deushada

関わりつながっていると捉える。つまり、(7)～(9)のように、「ようだ」「것 같다」「듯하다」が、<推量>を表す場合は、話者は(a-1)と(a-2)の文を関連付けて推量判断を行う。言い換えれば、話者は(a-1)と(a-2)また(b-1)と(b-2)の文は何らかの関係を持ち、二つの事態は関連していると捉える。「関連(している)」というのは、<あることが、他のことと内容の上で、かかわりつながっていること>である。つまり、(a-1)と(a-2)の文が関連しているということは、(a-1)と(a-2)の文の内容が関わり繋がっているということである。また本稿では、話者が二つの事態を関連付けて判断を行う場合、その判断は「関連性」に基づいた判断であると考えられる。つまり(7)～(9)は「関連性」に基づいて推量判断が行われている。

geosgatda deushada

(7)～(9)から分かるように<推量>を表す「ようだ」「것 같다」「듯하다」は、話者は自分の知識から、(a-1)と(a-2)の事態の「関連性」に基づき、(a-1)の事態を引き起こしうる可能性の中で一番起こりうると思う事態を(a-2)であると判断する。こ

geosgatda deushada

のように、「ようだ」「것 같다」「듯하다」が<推量>を表す場合「関連性」に基づく理由

geosgatda deushada

は「ようだ」「것 같다」「듯하다」が持つ「似ている」という意味からである。話者が2つの事態が「似ている」と判断するためには、話者は2つの事態を比較し、2つの事態を関連付けて考える過程が必要となる。即ち、話者は2つの事態を関連付けた後、2つの事態が「似ている」と判断するからである。

geosgatda deushada

以上「ようだ」「것 같다」「듯하다」が<比況>を表す場合と<推量>を表す場合を見てきたが、まとめると以下ようになる。

geosgatda deushada

「ようだ」「것 같다」「듯하다」が<比況>を表す場合、話者は比較する対象(事態)と比較される対象(事態)の間の「類似点」に基づいて、<現状は事態Xに似ている、近い>と捉えているのに対し、<推量>の場合の話者は前後の事態の関わり、即ち「関連性」

geosgatda

に基づいて<現状は事態Xに似ている、近い>と捉えている。つまり、「ようだ」「것 같다」

deushada

「듯하다」は<現状は事態Xに似ている、近い>という意味があるが、<比況>と<推量>の用法における発想の原理には違いが見られる。

また(10)と(11)の例を見られたい。

(10) 彼女は太っている。彼女はまるで豚のようだ。

(11) 空が黒い雲に覆われている。どうやら雨が降るようだ。

(10)は「ようだ」の<比況>の用法で、(11)は<推量>の用法である。「ようだ」の文を「AはBのようだ」と表した場合、<比況>の「ようだ」はAの事態を述べているのに対し、<推量>の「ようだ」はBの事態を述べている。(10)の話者はBの「豚」を述べているのではなく、Aの「彼女が太っている」ことを述べている。それに対し、(11)の話者はAの「空が黒い雲に覆われている」事態を述べているのではなく、Bの「雨が降る」という事態を述べている。つまり、「ようだ」が<比況>を表す場合は、Aの事態を述べており、<推量>を表す場合は、Bの事態を述べている。言い換えれば、(10)の<比況>の場合、話者はAの「彼女は太っている」ということを述べたいのに対し、(11)の<推量>の場合、話者はBの「雨が降る」という事態を述べたいのである。

geosgatda deushada

#### 4.. 「것 같다」「듯하다」の意味機能

geosgatda deushada gatda deus

すでに述べたように、「것 같다」と「듯하다」はそれぞれ「같다」と「듯」の意味から「似ている」という共通の意味を持つ。

猿 と チンパンジーは 部類に 属する

(12) 원숭이와 침팬지는 같은 부류에 속한다. (猿≠チンパンジー)

寝て ないあくびを する

(13) 잠을 못 잔 듯 하품을 하다. (寝てない≠あくびをする)

geosgatda deushada

しかし、(14) (15) は「것 같다」と「듯하다」でその許容度に差が見られる。

(14) 갑: <sup>あなた!</sup>여보!

을: <sup>おれが</sup>이 길을 <sup>この道</sup>통을 <sup>どうやって</sup>어떻게 <sup>分かって</sup>알고 <sup>出て</sup>나와 <sup>いるの?</sup>있어?

갑: <sup>なんとなく</sup>웬 <sup>し</sup>지 <sup>あなたは</sup>오늘은 <sup>あなたが</sup>당신이 <sup>この道</sup>여기로 <sup>通る</sup>을 것같더라. (것 같다) / ? 듯하다.

deushada  
(듯하다)

(15) <sup>なんとなく</sup>웬 <sup>し</sup>지 <sup>Aチームが</sup>A팀이 <sup>勝?</sup>이 <sup>이길</sup>이길 것같다 / ? 듯하다.

(14) (15) は「<sup>なんとなく</sup>웬 지」から分かるように、話者の内在的根拠に基づいて推量判断が

geosgatda

行われている。(14) (15) で分かるように、話し手の内在的根拠に基づく判断では、「것 같다」

deushada

が自然であるのに対し「듯하다」はやや不自然である。이혜용(2003)は(14)の「<sup>なんとなく</sup>웬 지」

deushada geosgatda

のように話者の内在的な根拠に基づき推量判断が行われる場合、「듯하다」は「것 같다」に比べ許容度が下がると述べている。

deushada

さらに、「듯하다」は漠然とした事態に対しての推量判断にはやや不自然である。

geosgatda      deushada

(16) 私達は 5年後ぐらいに結婚する  
우린 5년후에나 결혼할 것 같다 / ? ㄷ하다.

deushada

以下では、(14) ~ (16) のように「ㄷ하다」の許容度が下がる理由について考えてみる。(14) (15) のように推量判断の根拠が話し手の内在的根拠である場合、さらに (16)

deushada

のように判断した事態の成立が漠然で曖昧な事態の場合に「ㄷ하다」が不自然な理由は、

deushada

deushada

「ㄷ하다」の中心意味の影響からである。이기중 (2001) は「ㄷ하다」の中心意味は「類似性に基づく擬似判断」であると述べた。ここで「擬似判断」とは、「擬似」のく本物とよく似ていて区別をつけにくいこと>という意味から、「話者は命題を真によく似ている、つまり真に近いものとして判断している」ことである。ここで「真」とは、話し手にとって既に確認されている事態つまり、判断根拠を意味する。言い換えれば、話し手は命題を判断根拠に近いものとして判断している。既に述べたように、2つの事態が類似していると判断する根拠は、話し手の経験などから蓄積された知識からである。つまり、話し手の内在的根拠によるものではない。したがって、(14) (15) のように判断根拠が話し手の内在的

deushada

根拠による場合、「ㄷ하다」は不自然である。また (16) は漠然とした事態に対する推量

deushada

判断であり、「ㄷ하다」が持つ「類似性」の「比較」の意味特徴と漠然として事態に対しては「比較」しにくいという意味特徴がそぐわないため、(16) は不自然である。

deushada

一方、이기중 (2001) は「ㄷ하다」の中心意味が「類似性に基づく擬似判断」であるの

geosgatda

に対し、「것 같다」の中心意味は「擬似判断」であると述べ、その派生的な意味として「比喩」「推量」などの意味を表すと説明した。上述したように、話者が「擬似判断」をする場合、話者は命題を既に確認されている事態（根拠）に近い事態として捉える。その場合、比較する事態（対象）と比較される事態（対象）の持つ性質が類似している、近いと捉える場合は「比喩」となる。それに対し、話者が自分の知識に基づき、命題を確認されている事態（根拠）を引き起こした原因の中で一番実現可能性が高い事態であろうと捉えている場合、つまり、命題を根拠に近い事態として捉える場合は「推量」となる。

geosgatda

차현실 (1986) は (17) のように「것 같다」は判断根拠が直感などの内的なものでも外的なものでも自然に共起できると述べた。a は内在的な根拠に基づく推量判断であり、b は外的な根拠に基づく推量判断である。



(17) a <sup>私の直感では</sup> 내 직관에 이 <sup>この電車が終電である</sup> 차가 <sup>geosgatda</sup> 막차인 것 같다.

b <sup>人が一気に入ってくるのをみると</sup> 사람이 <sup>この電車が終電である</sup> 울리는 걸 보니, 이 차가 <sup>geosgatda</sup> 막차인 것 같다.

(17) において「この電車が終電である」と推量判断するためには何らかの理由がある。aの「私の直感では」から分かるように話者の直感による場合、bの「人が一気に入っているのを見て」から分かるように、「この時間で人が一気に入ってくると終電の時間に近い」という話者の経験による場合、さらに (17) cのように隣で人々が話しているのを聞いてからの場合などがある。

(17) c <sup>隣りの人々の話</sup> 옆에 사람들이 하는 이야기를 <sup>聞いて</sup> 듣고 이 <sup>この電車が終電である</sup> 차가 <sup>geosgatda</sup> 막차인 것 같다.

geosgatda

(17) から分かるように、「것 같다」は話者の内在的根拠、話者の経験、他者情報など

geosgatda

に基づいて推量判断を行う。つまり「것 같다」は話し手の内在的根拠や経験、他者情報など

deushada

の外的知識などすべての話者の知識に基づき推量判断を行うため「듯하다」のような制限はない。

geosgatda

以上をまとめると以下のようなものである。「것 같다」の中心意味は「擬似判断」であり、

deushada

deushada

「듯하다」は「類似性に基づく擬似判断」である。また「듯하다」は「類似性」という中心意味の影響で制限が生じる場合がある。話者は「擬似判断」を行う場合、判断根拠の種類に関係なく、つまり話者の持っている全ての知識に基づいて推量判断するが、「類似性に基づく擬似判断」の場合は「類似性」の持つ「比較」という意味特徴で判断根拠の種類に

geosgatda

deushada

よっては推量判断形式の使用に制限が生じる場合がある。つまり「것 같다」は「듯하다」より意味機能が広いといえる。

geosgatda deushada

## 5. 「ようだ」「것 같다」「듯하다」の個別の意味機能

geosgatda deushada

(18) ~ (23) は「ようだ」「것 같다」「듯하다」が<推量>を表す例であるが、それぞれの表現形式は例文によって許容度に差が見られる場合がある。二重線は判断根拠を示

し、一重線は推量判断形式を示す。

(18) a \*今日はなんとなくいいことが起こるようだ。

geosgatda

b 오늘은 왠지 좋은 일이 생길 것 같다。

deushada

c ?오늘은 왠지 좋은 일이 생길 듯하다。

(19) a \*今日はなんとなく A チームが勝つようだ。

geosgatda

b 오늘은 왠지 A 팀이 이길 것 같다。

deushada

c ?오늘은 왠지 A 팀이 이길 듯하다。

(20) a 彼女の目が赤い。彼女は泣いたようだ。

geosgatda

b 그녀의 눈이 빨갳다。그녀는 울었던 것 같다。

deushada

c 그녀의 눈이 빨갳다。그녀는 울었던 듯하다。

(21) a 黒い雲に覆われている。雨が降るようだ。

geosgatda

b 먹구름이 끼여 있다。비가 올 것 같다。

deushada

c 먹구름이 끼여 있다。비가 올 듯하다。

(22) a 彼の話によると、彼女は結婚しているようだ。

geosgatda

b 그의 이야기에 의하면、그녀는 결혼한 것 같다。

deushada

c 그의 이야기에 의하면、그녀는 결혼한 듯하다。

(23) a (友達に田中さんが東京大学に通っているという話を聞いて) 田中さんは頭のいい人のようだ。

b (친구에게 다나까씨가 동경대학에 다니고 있다는 이야기를 듣고) 다나까씨는

geosgatda

머리가 좋은 사람인 것 같다。

c (친구에게 다나까씨가 동경대학에 다니고 있다는 이야기를 듣고) 다나까씨는

deushada

머리가 좋은 사람인 듯하다。

(18) (19) は二重線の「なんとなく」から分かるように、判断根拠は内在的であるが、

geosgatda

deushada

この場合「것 같다」は自然であるのに対し、「듯 하다」はやや不自然で、「ようだ」を用いると非文になる。(20) (21) は二重線の「彼女の目が赤い」「黒い雲に覆われている」から分かるように、判断根拠は話者の観察による判断で、判断根拠は直接的である。この場合、三つの表現ともが用いられる。(22) (23) は二重線の「彼の話によると」「～という話

geosgatda

を聞いて」から分かるように、判断根拠は間接的である。この場合も、「ようだ」「것 같다」

deushada

deushada

「듯 하다」の三つの表現形式とも自然である。(18) ~ (23) のように「ようだ」と「듯 하다」は判断根拠の種類によって制限される場合がある。本稿では、判断根拠の種類を内在的・直接的・間接的の三つに分ける。内在的根拠というのは、判断根拠が話者の内部にある場合であり、直接的根拠というのは、話者の視覚などの感覚によって得られた根拠または経験によって得られた根拠である。また間接的根拠とは、話者の経験からではなく他者から得られた根拠である。

「判断根拠の種類」によって日韓推量判断形式に制限が見られるということは、尹相實(2004)などで述べられてきたが、本稿では「判断根拠の種類」において制限が生じる理由について考えてみたい。本稿では(18) ~ (23) のように、三つの表現形式によって制限が生じたり生じなかったりする理由を三つの表現形式が持つ中心意味から説明する。

geosgatda

本稿では、三つの表現形式の中心意味を次のように考える。まず「것 같다」は「擬似判

deushada

断」を表す表現で、「ようだ」と「듯 하다」は「類似性に基づく擬似判断」を表す表現である。既に述べたように、「擬似判断」とは、「はっきりは分からないが、話者は命題を真によく似ている、つまり真に近いものとして判断している」という意味である。したがって、

geosgatda

「것 같다」は判断根拠の種類に関係なく、話者が命題を真に近いと判断した時に用いられ

deushada

るため、判断根拠の種類による制限は生じない。それに対し、「ようだ」と「듯 하다」の中心意味は「類似性に基づく擬似判断」であり、判断根拠の種類によって制限が生じる場合がある。「類似している」あるいは「類似していない」と判断するためには、比較する対象と比較される対象の2つの対象が必要となる。即ち、判断根拠と命題である。比較するという事は、2つの対象を見比べるという行為である。2つの対象を見比べる時は実体がない抽象的な対象(事態)とは比べにくく、具象的な対象とは比べやすい。言い換えれば、判断根拠が内在的である場合は比較しにくく、判断根拠が話者の視覚などによる直接的な

deushada

場合に一番比較しやすい。即ち「ようだ」と「듯하다」の「比較」「類似」の意味特徴の影

deushada

響で判断根拠が内在的である場合は「ようだ」と「듯하다」は用いられない（あるいは用いられにくい）。それに対し、判断根拠が比較しやすい直接的である場合には「ようだ」も

deushada

「듯하다」も用いられる。また (22) (23) から分かるように、判断根拠が間接的である場合も三つの表現形式とも用いられる。判断根拠が直接的である場合ほどではないが、話者は聞いた話の内容を自分の知識に基づき間接的根拠を自分なりに解釈し、命題の内容と比較することができるからである。

deushada

また、「ようだ」と「듯하다」は「比較」「類似」の意味特徴から漠然とした推量に用い

deushada

ると不自然な文になる。これは「ようだ」「듯하다」の「比較」の意味特徴と漠然とした対象に対しては比較しにくいという意味特徴とがそぐわないからである。

(24) a ? 私達は 5年後ぐらいに結婚する ようだ。

geosgatda

私達は 5年後ぐらいに 結婚する  
b 우린 5년후에나 결혼할 것 같다。

(再掲 (16))

deushada

私達は 5年後ぐらいに 結婚する  
c ? 우린 5년후에나 결혼할 듯하다。

deushada

以上をまとめると以下のようなようである。「ようだ」と「듯하다」は「類似性に基づく疑似判断」という中心意味の影響で判断根拠の種類や命題の種類によって制限が生じる場合があ

geosgatda

る。それに対し「것 같다」は話者が、命題を真に近いと判断する場合に用いられるため、

deushada

「ようだ」と「듯하다」のような制限は生じない。

## 6. まとめ及び今後の課題

geosgatda deushada

geosgatda

以上、「ようだ」「것 같다」「듯하다」の意味機能について考察した。「ようだ」「것 같다」  
deushada

「듯하다」が<比況>を表す場合は、「類似性」に基づいて表現されるのに対し、<推量>を表す場合は、「関連性」に基づいて表現される。つまり、三つの表現形式は<現状は事態

Xに似ている、近い>という共通の意味を持つが、<比況>を表す場合と<推量>を表す場合とでは思考の原理に違いがあることを明らかにした。また日韓両言語においては、判

geosgatda

断根拠の種類によって制限が生じる場合があることを述べた。「ようだ」「것 같다」

deushada

「듯하다」は中心意味の影響で判断根拠の種類や命題の種類によって制限が生じる場合がある。「ようだ」の中心意味は「類似性に基づく擬似判断」で、その中心意味から判断根拠が直接的である場合と間接的である場合は共起可能であるが、判断根拠が内在的である場

geosgatda

合は、共起すると非文になる。それに対し、「것 같다」の中心意味は「擬似判断」で、判

deushada

断根拠の種類に関係なく共起する。また「듯하다」の中心意味は「類似性に基づく擬似判断」で、その中心意味から判断根拠が内在的な場合には制限される場合がある。以上、三つの表現形式の中心意味と判断根拠の種類による制限をまとめると【表1】のようになる。

【表1】表現形式の中心意味と判断根拠の種類による制限

意味特徴 表現形式	中心意味	内在的判断根拠	直接的判断根拠	間接的判断根拠
「ようだ」	類似性に基づく擬似判断	×	○	○
geosgatda 「것 같다」	擬似判断	○	○	○
deushada 「듯하다」	類似性に基づく擬似判断	?	○	○

(「○」は共起可能を「×」は共起不可を、「?」は共起すると不自然であることを示す)

geosgatda deushada

本稿では、「ようだ」「것 같다」「듯하다」の「基本意味」の立場からそれぞれ形式の共通・個別の意味機能について述べた。また本稿では、「基本意味」の分析の立場から先行研究でそれぞれ論じられてきた「基本意味」による分析と「判断根拠の種類」による分析の二つを関連付けて説明した。今後は、「基本意味」の分析の立場から「基本意味」と先行研究のもう一つの分析立場である「命題と話者の心理的距離」とを関連づけて考えてみたい。

#### 【参考文献】

大場美恵子 (2002) 「日本語の助動詞『ようだ』と『らしい』の違いについて」『マテシス・ウニヴェルサリス』3巻2号、獨協大学外国語学部言語文化学科

- 菊地康人 (2000) 「『ようだ』と『らしい』 - 『そうだ』『だろう』との比較も含めて」『国語学』第 51 卷 1 号
- 丹保健一 (1999) 「『ようだ』の意味をめぐって一様態、推量、伝聞、婉曲を中心に」『三重大学教育学部研究紀要』第 50 卷、人文・社会科学
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 中村亘 (2000) 「『ようだ』『らしい』『そうだ』をめぐって一事態の捉え方の違いという観点から」『早稲田日本語研究』8 卷、早稲田大学国語学会Ⅱ編
- 早津恵美子 (1988) 「らしい」と「ようだ」『日本語学』7 卷 4 号
- 福島悦子 (1990) 「『ようだ』と『らしい』の意味・用法分析—形態・共起する語と意味・用法とのかかわりをめぐって—」『埼玉大学紀要』第 26 卷、埼玉大学教養学部
- 初山洋介 (2001) 「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」『認知言語学論考 No. 1』梨正明他編、ひつじ書房
- 山梨正明 (2001) 「ことばの科学の認知言語学的シナリオ」『認知言語学論考 No. 1』山梨正明他編、ひつじ書房
- 尹相實 (2004) 「日韓両言語における対照研究のあり方」『日語日文学研究』第 49 輯 1 卷[日本語学・日本語教育編]、韓国日語日文学会
- 이기중 (2001) 『우리말의 인지론적 분석』도서출판 역락
- 이혜용 (2003) 「『짐작』, 『추측』 양태 표현의 의미와 화용적 기능」이화여자대학교 대학원 석사논문
- 차현실 (1986) 「양상술어(modal predicate)의 통사와 의미·미확인 양상술어를 중심으로」『梨花語文論集』第 8 輯、梨花女子大學校韓國語文學研究所

※ なお、本稿のルビ位置の不具合は印刷段階で発生した問題で、編集側の責任であり、著者の責任ではありません。  
(編集委員)